

## 理事長所感（6月）

西欧にはジューン・ブライド（6月の花嫁）という言葉があり、「6月の花嫁は幸せになる」との言い伝えもあるようです。

緯度が高く、梅雨のないヨーロッパは、6月になるとさらさらとした気候の下で、太陽は輝き、バラは咲き誇り、結婚式に最適となります。

さらに、ドイツでは白アスパラガス（Spargell シュパーゲル）のシーズン（4月～6月）で、宴席料理も美味しくなります（4月に出始めるシュパーゲルを待つドイツ人の感覚は、江戸っ子が初鰹を待ちわびる思いに似ています。）。

それに、何とんでも白夜が素晴らしい。

一方、わが国では6月の梅雨時の結婚式は余り歓迎されません。というのも、雨に降り込められると屋外でのイベントができなくなるし、列席者にとっても高温多湿の6月に式服や着物での参加は、いくら屋内で冷房が効いているといっても、きついものがあります。

6月の結婚式はほんの一例ですが、世界の多様性の一端を示しています。

その多様性を前提に、世界のすべての国（193ヶ国）が、一斉に走り出している共通の目標（ゴール）があります。

それが、SDG s（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）です。

17のゴール（例えば、第1ゴールの「貧困をなくそう」、第11ゴールの「住み続けられるまちづくりを」、第13ゴールの「気候変動に具体的な対策を」、第14ゴールの「海の豊かさを守ろう」など）とそれを更に具体的な施策にブレイクダウンした169のターゲットから構成されています。

もともと、共通のゴールと言っても、「貧困をなくそう」で発展途上国と先進国とでは政策が異なるように、それぞれの国柄によって具体的な手法は異なります。

また、「貧困をなくそう」として、発展途上国が化石燃料を大量に使った20世紀型の工業化を推進すれば、地球温暖化が加速され「気候変動に具体的な対策を」という第13ゴールに抵触することになります。

そこで、こうした課題に対処しつつ、いかにゴールを目指すかが各国の知恵と創意工夫の見せ所となります。

わが国の場合、俳句や和歌、茶の湯のように、地球にやさしく、四季折々の変化に併せて生活を楽しむ住民の知恵があります。

その住民の知恵を活かしてSDG sのゴールを目指すのが良いと思われます。

従来から住民と自治体との協働について研究を重ねている当協会として、住民の生活の知恵をSDG sに活かす方策について調査研究するため委員会を設置いたしました。

その研究成果がわが国らしいSDG sのゴール達成にいささかでもお役にたてればと願っているところです。

理事長 平谷 英明